

# 木島地区に伝わる鬼伝説「鬼神堂」

～「木島ふるさとかるた」を通しての学習～

飯山市立木島小学校 山崎 哲矢

## 1 はじめに

2年前。木島小学校に赴任する前のこと。飯山市内でふと立ち寄ったコンビニエンスストアで『木島ふるさとかるた』（発行 信州教育出版社）なるものが売られていた。市町村単位の「ふるさとかるた」の存在は知っていたのだが、このように「木島」という地区限定のかるたが存在し、しかもコンビニエンスストアで売られているとは！と、大変に驚き、そして感心したことを覚えている。しかし、後になって、この「木島ふるさとかるた」を扱いながら学習を進めていくようになるとはこのときは思いもしなかったのである。

## 2 「木島ふるさとかるた」の活用

木島小学校では、全校縦割り班で「木島ふるさとかるた」を楽しむ行事が例年設けられている。

また、低学年（1・2年生）は、1学期に実施される「ふるさと遠足」で「木島ふるさとかるた」で紹介されている場所を経由して地区を巡る学習をしてきた。その時には、「木島ふるさとかるた」の発行に携われた田中渉さんをお招きして、現地で「かるた」に紹介された内容に触れながら、丁寧に地区の説明をして頂いてきた。

そして3年生では社会科が始まり、まずは地区・地域のことを知るということで「地域探検」に出かけていく。ここで改めて「かるた」に書かれていることが「ああ、なるほど。こういうことだったのか！」と、子どもたちの深い理解につながっていくように感じている。



安田地区にある赤地蔵の説明をしてくださる田中渉さん。

## 3 令和元年度 3年生の実践より

今年度の木島小学校3年生も、「木島かるた」も参考にしながら地域探検に出かけて行った。その中で、子どもたちが一番に興味をもったものが木島地区に伝わる伝説や民話であった。

幾つか話がある中で簡単であるが二つ紹介したい。



天神堂地区にある天満宮には、昔、洪水の度に、天神様が何度も流れ着いた場所との言い伝えが残されている。子どもの好きな神様なので、神社の戸はいつも開け放されている。



下木島地区にある鳥出神社。境内には樹齢千何百年という大ケヤキが枝をはり、かつては県指定天然記念物にも指定されていた。この神社は「鬼神堂」とも呼ばれている。

3年生は、この「鬼神堂」の鬼伝説が気に入っている。

大昔、この付近に一匹の大鬼がいて、あちこちの村を荒らしまわっていた。村人が困り果てていたところ、ある秋の日の夕方、暗闇になると同時に天地をも割れんばかりの大声が響き渡り、大鬼の胴体だけが草むらから見つかったという。そして鬼の頭は（木島平村の）上木島の照明寺あたりに転がっていたという。そして鬼の頭があった方を「上鬼島」、胴体のあった方を「下鬼島」と呼ぶようになった。

【境内にある解説文『飯山の風土記』より】

そして、この伝説を「総合的な学習の時間」に劇化して発表しようということで話が盛り上がり、劇団「鬼じま」を立ち上げた。5回の舞台発表を目標に、回数を重ねるごとに、参観者から頂いたご意見や感想をもとにより良い劇へと進化をさせていった。市青少年芸術祭の「なちゅら」でのステージを最終目標としていたが中止となったため、11月にお世話になったお客様も本校にお呼びして、全校の前で発表して活動を締めくくった。



鬼神堂の下では、鬼たちが酒盛りをしていたという言い伝えもあり、今も覗き込むと盃が祀られている。劇の序盤で、それを覗き込む小学生役。



劇の最大の見せ場。村人たちのために巨大な鬼の退治に挑む、泉小太郎。

#### 4 おわりに

劇化していく段階で鳥出神社で調査していたところ、散歩をしていた地元の方に「そのように地域の子が鳥出神社のことを勉強し、発信してくれることがうれしい。もっと鳥出神社のことを知ってもらいたい。」とおっしゃっていた。また、劇を見に来てくださったお客様は「木島地区の子であれば、一度は覗き込んだことがあるであろう鬼神堂。そういったことを劇にしてくれることがすごく嬉しい。」と瞳を潤ませながら話してくださった。

まずは子どもたちが、ふるさと学習を通して木島の良さを味わうこと。その上で、学んだことを地域に発信したり、生かそうとしたりする人間性を育てていきたい。